AWS Black Belt Online Seminar

Amazon Route 53

Hosted zone 編

Amine Tei (丁　亜峰)

Solutions Architect
2023/05

AWS Black Belt Online Seminar とは

- 「サービス別」「ソリューション別」「業種別」などのテーマに分け、アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社が提供するオンラインセミナーシリーズです
- AWS の技術担当者が、AWS の各サービスやソリューションについてテーマごとに動画を公開します
- 以下の URL より、過去のセミナー含めた資料などをダウンロードすることができます
  - https://aws.amazon.com/jp/aws-jp-introduction/aws-jp-webinar-service-cut/
  - https://www.youtube.com/playlist?list=PLzWGOASvSx6FIwIC2X1nObr1KcMCBBlqY

ご感想は Twitter へ！ハッシュタグは以下をご利用ください
#awsblackbelt

内容についての注意点

- 本資料では 2023 年 05 月時点のサービス内容および価格についてご説明しています。AWS のサービスは常にアップデートを続けているため、最新の情報は AWS 公式ウェブサイト (https://aws.amazon.com/) にてご確認ください
- 資料作成には十分注意しておりますが、資料内の価格と AWS 公式ウェブサイト記載の価格に相違があった場合、AWS 公式ウェブサイトの価格を優先とさせていただきます
- 価格は税抜表記となっています。日本居住者のお客様には別途消費税をご請求させていただきます
- 技術的な内容に関しましては、有料の AWS サポート窓口へお問い合わせください
- 料金面でのお問い合わせに関しましては、カスタマーサポート窓口へ
  お問い合わせください (マネジメントコンソールへのログインが必要です)

自己紹介

名前：丁　亜峰

所属：アマゾンウェブサービスジャパン合同会社

　西日本担当ソリューションアーキテクト

経歴： SaaS会社にてインフラエンジニアとして活動（大阪)

好きなAWSサービス：

AWS Transit Gateway, AWS サポート, AWS IoTサービス

本セミナーの対象者

- これからAmazon Route 53 を利用される予定の方
- オンプレミス-AWS環境のDNSの設計・実装を担当される方
- AWSのネットワーク設計を担当されている方

Agenda

1. Amazon Route 53 ドメインの登録
2. Amazon Route 53 Hosted Zone
3. トラフィックルーティング
4. ドメイン移行とテスト、トラブルシューティング
5. まとめ

Agenda

1. Amazon Route 53 ドメインの登録
2. Amazon Route 53 Hosted Zone
3. トラフィックルーティング
4. ドメイン移行とテスト、トラブルシューティング
5. まとめ

ドメインのレジストラ

Amazon Route 53 ドメインの登録

Amazon Route 53にて新しいドメインを登録

- サポートされるドメイン　2023/4時点
  - 汎用トップレベルドメイン（gTLD）
    - 273 gTLD (.com .net .org など)
  - 地理的トップレベルドメイン（ccTLD）
    - 62 ccTLD (.uk .au .ca .de など)
  - Route 53 レジストラは、Amazon Registrar, Inc.と Gandi のいずれか
- 信頼性の高いTLDを利用
  - プロダクトなど可用性が求められるユースケース

Amazon Route 53 に登録できる最上位ドメイン
https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/Route53/latest/DeveloperGuide/registrar-tld-list.html

Amazon Route 53にて新しいドメインを登録

① ドメイン名の選択

.com - $13.00　チェック

ドメイン名を登録するには、使用可能なものの検索から開始します。ドメイン名の最初の部分 (example.com の example など) を入力し、拡張子 (.com や .org など) を選択して、[チェック] をクリックします。ドメインが使用可能かどうか、および他の拡張子で取得できるかどうかお知らせします。詳細はこちら

② 1 ドメインのお問い合わせ詳細

登録者、管理者、および技術的な連絡先の詳細を以下に入力します。特に指定されない限り、すべてのフィールドが必須です。詳細はこちら

登録者、管理者、および技術的な連絡先はすべて同じです: はい　いいえ

登録者の連絡先

連絡先のタイプ	会社
名	Domain
姓	Registr
会社名	company
E メール	company@sample.com
電話	+ 44 - 1234567
	国コードと電話番号を入力します
住所 1	50 Asdf
	住所、私書箱
住所 2	Osaka
	アパート、部屋、部署、ビル、階など
国/地域	Japan
都道府県	都道府県は必須ではありません
市区町村	
郵便番号	
プライバシーの保護	連絡先タイプが会社の場合:

- プライバシー保護により、.com ドメインの一部の連絡先詳細が非表示になります。

有効化　無効化

③ 連絡先の詳細の確認

次の連絡先情報が正しいことを確認します。購入を完了すると、ショッピングカートのすべてのドメインに対してこの情報が使用されます。

登録者の連絡先	管理者の連絡先	テクニカル担当者
Domain Registr	Domain Registr	Domain Registr
company	company	company
company@sample.com	company@sample.com	company@sample.com
+44.1234567	+44.1234567	+44.1234567
50 Asdf Osaka	50 Asdf Osaka	50 Asdf Osaka
Suiat	Suiat	Suiat
100-0002	100-0002	100-0002
JP	JP	JP
プライバシー保護済み	プライバシー保護済み	プライバシー保護済み

新しいドメインの DNS の管理

新しいドメインの DNS サービスとして簡単に Route 53 を使用するため、自動的にホストゾーンが作成されます。これは、ドメインのトラフィックをルーティングする方法 (たとえば Amazon EC2 インスタンスにルーティングする) についての情報を保存する場所です。ここでドメインを使用しない場合は、ホストゾーンを削除できます。お客様のドメインを使用する場合、ホストゾーンおよびそのドメインに対して当社が受け取る DNS クエリについては、Route 53 の料金がかかります。詳細については、Amazon Route 53 料金表 を参照してください。

ドメインを自動的に更新しますか?

ユーザーは、登録したドメイン名を 1 年間所有します。ドメイン名の登録を更新しない場合は期限切れとなり、他のユーザーがそのドメイン名を登録できるようになります。毎年、自動的に更新することによって、ドメイン名を確実に保持することができます。ドメイン名更新のコストはお使いの AWS アカウントに請求されます。Route 53 コンソールを使用して、いつでも自動更新を有効または無効にできます。詳細については、ドメイン登録の更新 を参照してください。

有効化　無効化

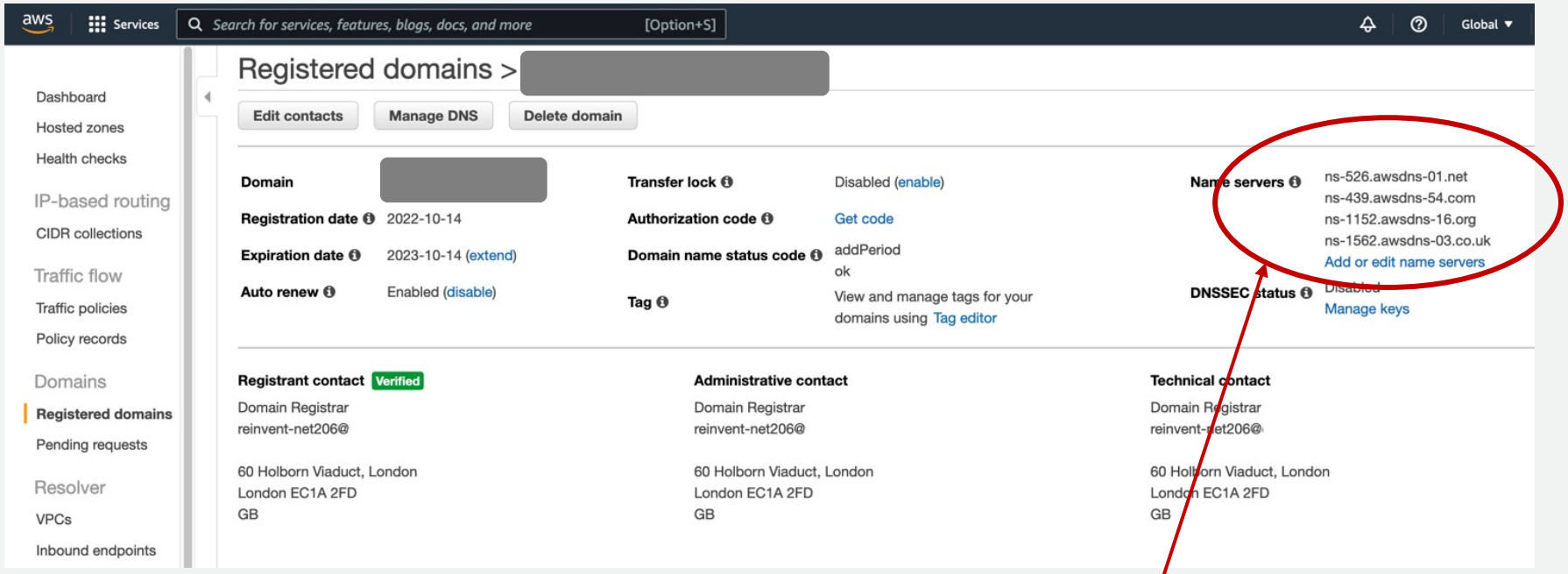
規約

Amazon Route 53 では、AWS アカウントを使用してドメイン名を登録し、移管することができます。ただし、AWS はドメイン名レジストラではないため、レジストラアソシエイトが登録および移管サービスを行います。AWS を通じてドメイン名を購入する場合、当社レジストラアソシエイトがドメインを登録します。ドメインのレジストラは、指定された登録者の連絡先と定期的に連絡を取って連絡先の詳細を確認し、登録を更新します。

AWS ドメイン名の登録契約 を読んで同意します

キャンセル　戻る　注文を完了

Amazon Route 53にて新しいドメインを登録



新しいドメインの ネームサーバとして簡単に Route 53 を使用するため、自動的にホストゾーン（後述） が作成され、ドメインのトラフィックをルーティングする方法（後述）についての情報を保存する場所。

ドメインを移管

1
- 現在のレジストラでドメインをロック解除する
- ドメインを新しいレジストラに移管

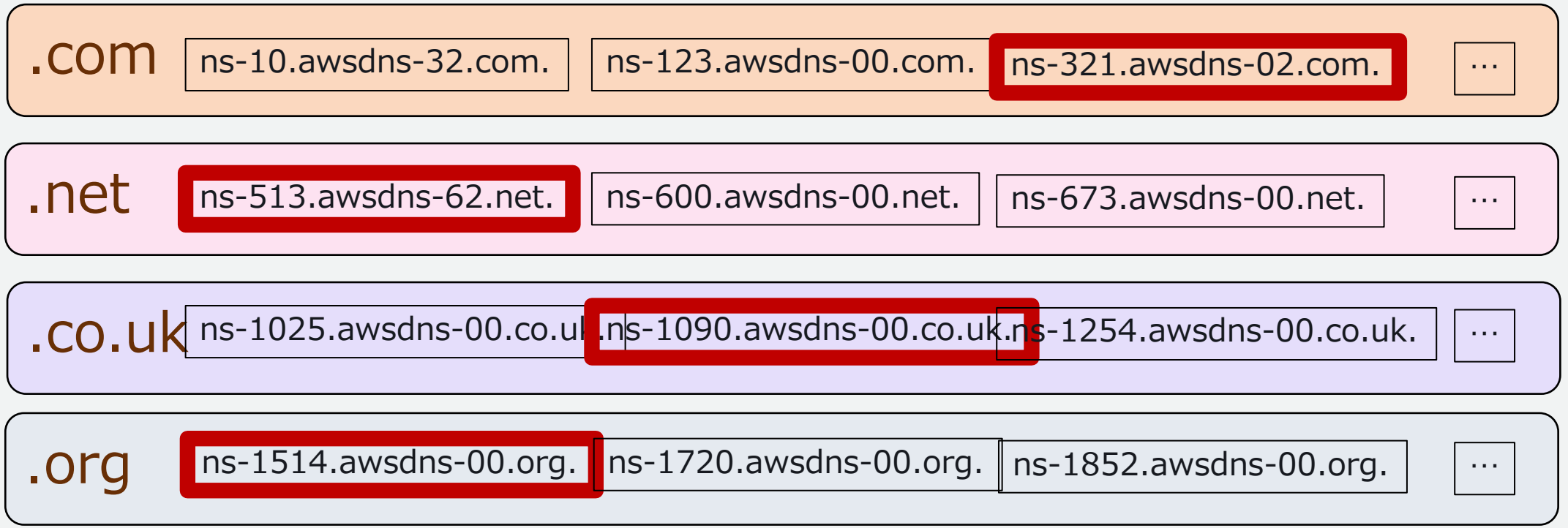
2
- AWSへ移管する場合:
  - ネームサーバーが割り当てられる
  - Route 53 Public Hosted Zone が作成される

Amazon Route 53 へドメインを移管

- TLD一覧に含まれているドメインの移管は可能
- 移管時に現レジストラより認証コードが必要となる場合がある
  - TLD の「Route 53 への移管に必要な認証コード」をご参照

https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/Route53/latest/DeveloperGuide/domain-register-values-specify.html

Route 53 Architecture – Name server ストライプ



example.com

４つの独立したコントロールプレーン
１つのドメインにストライプ内の４つのネームサーバーを割り当てる。

https://aws.amazon.com/jp/builders-library/workload-isolation-using-shuffle-sharding/

Agenda

1. Amazon Route 53 ドメインの登録
2. Amazon Route 53 Hosted Zone
3. トラフィックルーティング
4. ドメイン移行とテスト、トラブルシューティング
5. まとめ

ドメインのDNS サービス

Amazon Route 53 Hosted Zone

Amazon Route 53 Hosted Zone の特徴

信頼性	•冗長化されたロケーション •SLA設定
高速	•全世界で動作するAnycastネットワーク •変更を高速伝播
AWS サービスとの統合	•エイリアスレコード •IAM •CloudWatchメトリクス •CloudTrail など
使いやすさ	•フルマネージドサービス •トラフィックフロー •CLI/APIでの操作 •数分で利用開始 など
経済性	•安価 •使用した分だけの課金
柔軟性	•重みづけラウンドロビン •レイテンシベース •DNSフェイルオーバー •位置情報ルーティング など

Public Hosted Zone と Private Hosted Zone

Public hosted zone

インターネット向けリソースへのルート

インターネットからのリゾルバー

インターネットにアクセス可能なネームサーバー

親ゾーンから委任できる

サブドメインの委任をサポートする

グローバルルーティングポリシー

DNSSEC コンフィギュレーション

Private hosted zone

VPC リソースへのルーティング

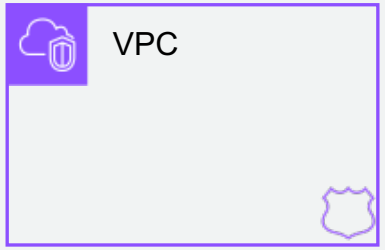
VPC (またはオンプレミスネットワーク) から名前解決

転送ルールとエンドポイントを使用してアクセス可能

クロスアカウントで共有、複数VPC間で共有

委任をサポートしていません

Route 53 リゾルバー (VPC+2) との統合

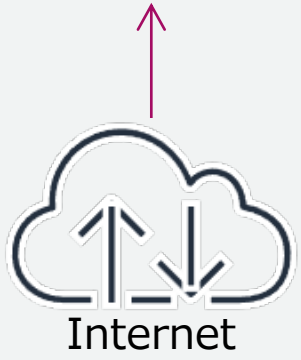


Public Hosted Zone と Private Hosted Zone

- 特定のVPCからの問い合わせと、それ以外からの問い合わせを識別し、異なる応答を返す
- スプリットビュー DNS /スプリットホライズン DNSを構成できる

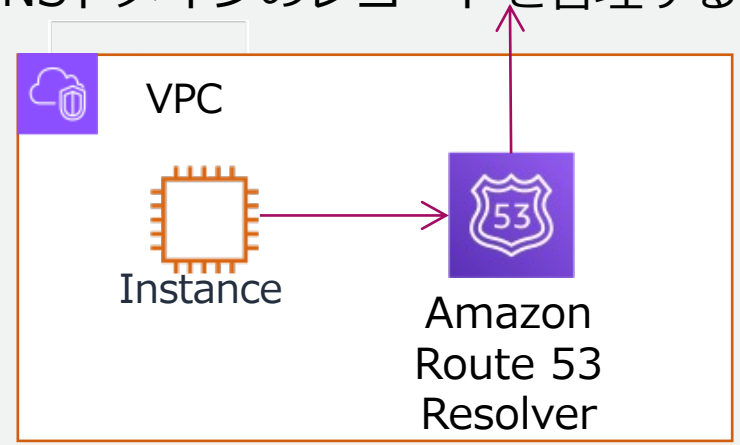
Amazon Route 53 Public Hosted Zone

インターネット上に公開されたDNSドメインのレコードを管理するコンテナ



Amazon Route 53 Private Hosted Zone

VPCに閉じたプライベートネットワーク内のDNSドメインのレコードを管理するコンテナ



Amazon Route 53 Hosted Zoneでできること

- フルマネージドのネームサーバー
- ヘルスチェック & DNS フェイルオーバー
- トラフィックルーティング

Hosted Zone = ネームサーバー

- Hosted Zoneでドメイン名のリソースレコードを管理
- Amazon Route 53 は、作成したHosted Zoneごとに、ネームサーバー (NS) レコードと Start of Authority (SOA) レコードを自動的に作成する

1つのHosted Zoneにネームサーバーの FQDNを4つ割り当て、4つのトップレベルドメイン (*.com, *.org, *.net, *.co.uk) にまたがる

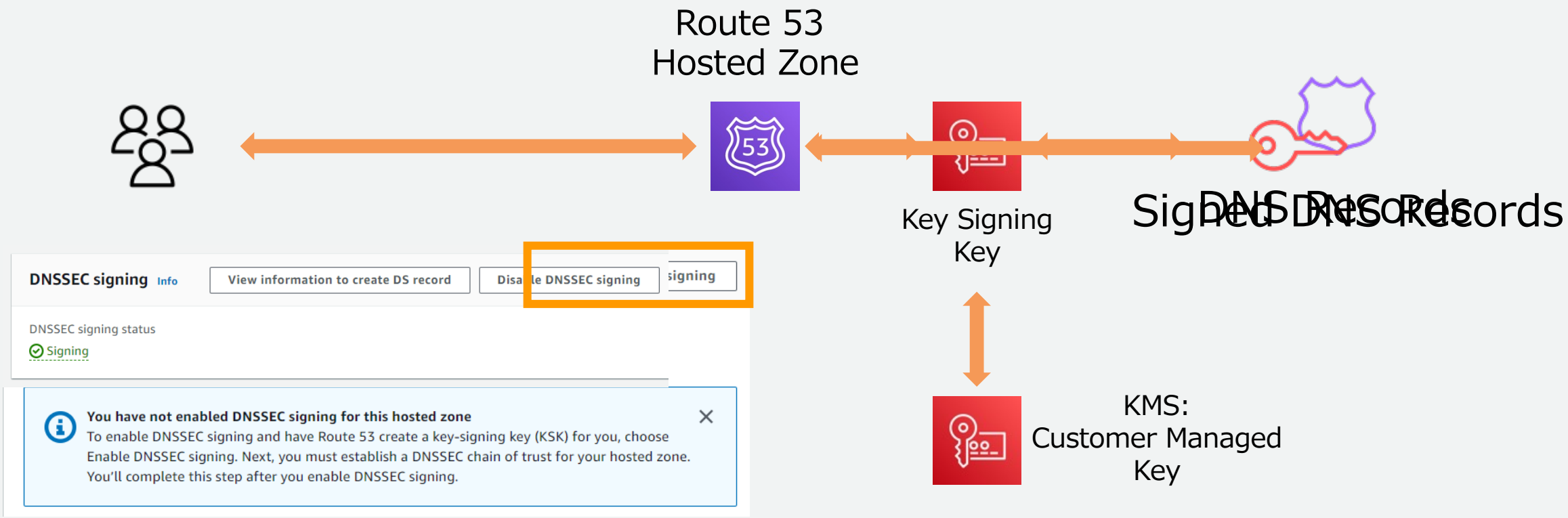
↑↑↑ 原則としてこれらのレコードを変更しないでください

Amazon Route 53 サービスレベルアグリーメント
https://aws.amazon.com/jp/route53/sla/

Amazon Route 53 IPv6 support

- IPv6 エンドツーエンドのDNS
- IPv6 フォワード (AAAA) およびリバース (PTR) DNS レコードのサポート
- Route 53 ヘルスチェックは IPv6 エンドポイントのモニタリングをサポート

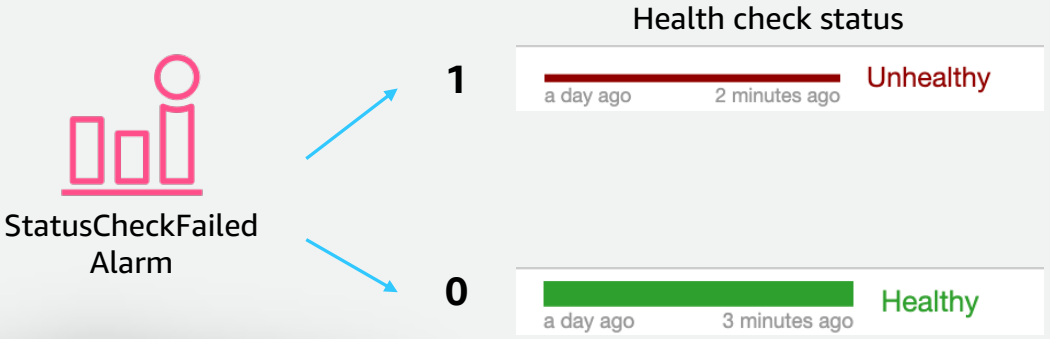
Amazon Route 53 での DNSSEC 署名

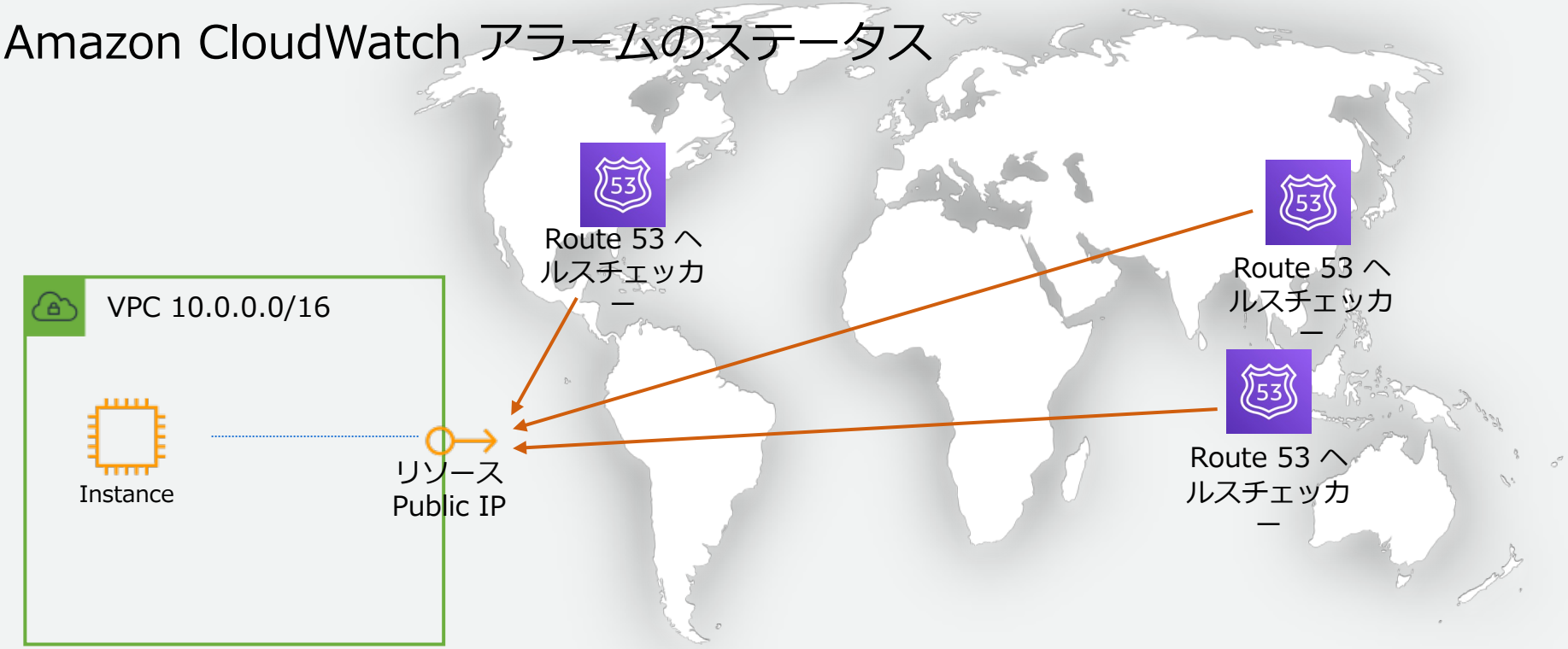


DNS 応答が Amazon Route 53 から送信され、 DNS リゾルバーは改ざんされていないことを検証
DNSSEC 署名を使用すると、ホストゾーンへのすべての応答は、公開キー暗号化を使用して署名される

Amazon Route 53 ヘルスチェックとアラート

- 指定されたリソースのヘルスチェック
- その他のヘルスチェックのステータス
- Amazon CloudWatch アラームのステータス





Route 53 よく利用されるレコードタイプ

- *ALIAS* – CNAMEを応答せず、最終的に必要とするレコードデータのみを応答

- *A Record – IPv4* アドレスを応答
- *AAAA Record – IPv6* アドレスを応答
- *CNAME Record – Canonical NAME (*正式名*)*を応答
- *MX Record* – 該当ドメインのメールサーバーの*FQDN*を応答
- *NS Record – Hosted Zone*で指定されたネームサーバー
- *DS Records – DNSSEC* 委任レコードの指定に使用される

エイリアスレコード

- 問い合わせ元にCNAMEを応答せず、最終的に必要とするレコードデータのみを応答するAmazon Route 53固有の拡張機能
- CNAMEを利用しないことで、Zone Apex(サブドメインを含まないドメイン名)でサービスをホスト可能とする（例：https://example.com)
  ※エイリアスレコードの詳細な仕様はドキュメントを参照してください

CNAMEを用いた名前解決の応答例

www.example.com.	60	IN	CNAME	www-a.example.com.
www-a.example.com.	60	IN	CNAME	xxxx.cloudfront.net.
xxxx.cloudfront.net.	60	IN	A	192.0.2.3

最終的に必要とするレコードデータ

エイリアスを用いた名前解決の応答例

www.example.com.	60	IN	A	192.0.2.3

https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/Route53/latest/DeveloperGuide/resource-record-sets-choosing-alias-non-alias.html

Agenda

1. Amazon Route 53 ドメインの登録
2. Amazon Route 53 Hosted Zone
3. トラフィックルーティング
4. ドメイン移行とテスト、トラブルシューティング
5. まとめ

トラフィックルーティング

トラフィックルーティング

- DNSの応答をカスタマイズすることで、クライアントからのトラフィックをより適したリソースにルーティングする機能
- レコードの作成時に、Amazon Route 53 がクエリに応答する方法を決定するルーティングポリシーを選択

トラフィックルーティングポリシー

Amazon Rout 53が提供するルーティングポリシー

ルーティングポリシーの選択 - Amazon Route 53
https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/Route53/latest/DeveloperGuide/routing-policy.html

ルーティングポリシー：シンプル

- 従来のDNSと同様に、静的なマッピングによりルーティングが決定される
- 複数の値を 1 つのレコードに指定すると、すべての値をランダムな順序で応答（いわゆるDNSラウンドロビン）
- プライベートホストゾーンのレコードに使用可能

レコードセットの設定

名前	タイプ	値
www.example.com.	A	192.0.2.11 192.0.2.12 192.0.2.13

応答

www.example.com.	60	IN	A	192.0.2.13
www.example.com.	60	IN	A	192.0.2.11
www.example.com.	60	IN	A	192.0.2.12

応答順序は
都度ランダム

ルーティングポリシー：フェイルオーバー

- ヘルスチェックの結果に基づいて利用可能なリソースのみを応答する
- アクティブ / アクティブおよびアクティブ / スタンバイ構成を実現
- フェイルオーバー条件は、複数のヘルスチェック結果を結合するなどのカスタマイズが可能
- プライベートホストゾーンのレコードに使用可能

具体的なユースケース

複数リージョンにまたがるシステムで冗長構成

災害発生時にリージョン間でフェイルオーバー

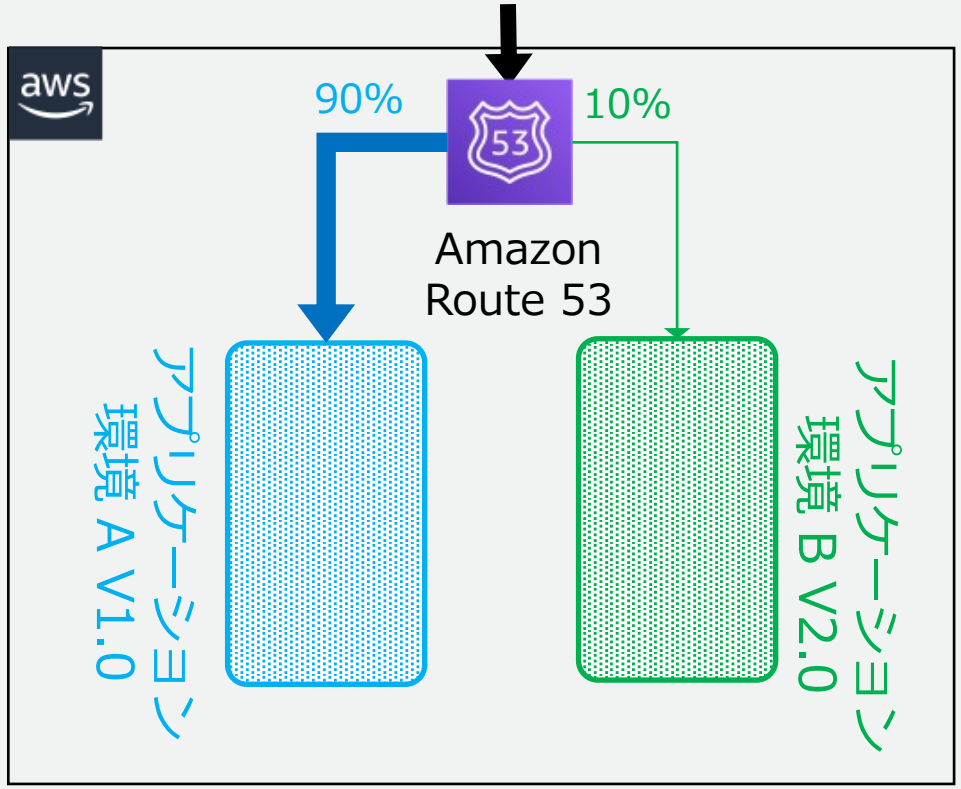
障害時に、S3にホスティングした静的ウエブサイトのSorry Pageを表示

ルーティングポリシー：加重

- 指定した比率で複数のリソースにトラフィックをルーティングする
- より重み付けの高いリソースにより多くルーティングされる
- プライベートホストゾーンのレコードに使用可能

具体的なユースケース

- A/Bテスト、新しいバージョンのテスト
- 段階的な移行(Blue/Greenデプロイ)
- サーバー毎に性能の偏りがある場合の負荷平準化

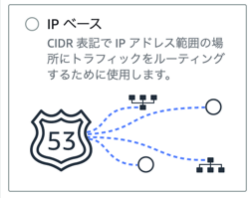


ルーティングポリシー：レイテンシー

- 複数の AWS リージョンでアプリケーションがホストされている場合、ネットワークレイテンシーが最も低い AWS リージョンのリソースを応答
- 一定期間中に実行されたレイテンシーの測定値に基づいており、時間の経過と共に変化する場合がある
- プライベートホストゾーンのレコードに使用可能

具体的なユースケース

ネットワークレイテンシーが最も低いリクエストを処理することで、ユーザーのパフォーマンスを向上させる



ルーティングポリシー：IPベース

- ユーザー IP からエンドポイントにマッピングする形で Route 53 にデータをアップロードする
- IP 範囲の管理とリソースレコードセット (RRSet) への関連付け

具体的なユースケース

- 特定の ISP から特定のエンドポイントにエンドユーザーをルーティング
  - 例：グローバルな動画コンテンツプロバイダーが、特定の ISP からのエンドユーザーをルーティング
- 位置情報ルーティングなど既存の Route 53 ルーティングタイプにオーバーライドを追加

ルーティングポリシー：複数値回答

- 最大 8 つのランダムに選択された正常なレコードで DNS クエリに応答
- 各リソースが正常かどうかも確認し、正常なリソースの値のみを応答
- 応答をキャッシュされた後にリソースが使用できなくなった場合にも、クライアントは応答内の別の IP アドレスを利用できる

これはロードバランサーに置き換わるものではありませんが、正常であることが確認できる複数の IP アドレスを返すことにより、DNS を使用してアベイラビリティーとロードバランシングを向上させることができる

ルーティングポリシー：位置情報

- クライアントの位置情報に基づいて、DNSクエリに応答する
- 特定の地域・国からのDNSクエリに対して、特定のアドレスを応答する
- プライベートホストゾーンのレコードに使用可能。大陸別、国別、米国の州別に指定する

具体的なユースケース

クライアントの地域により適切な言語でコンテンツを提供

コンテンツのディストリビューションをライセンス許可した市場のみに制限する

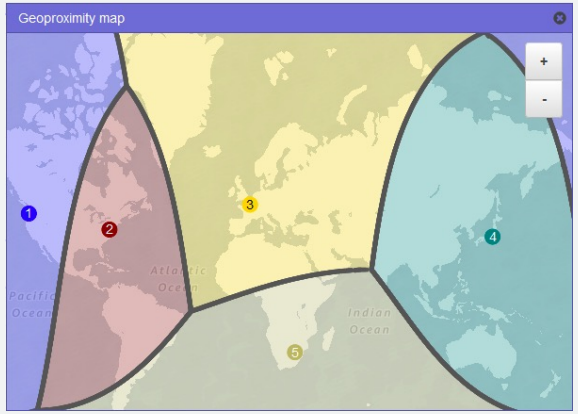
ルーティングポリシー：地理的近接性

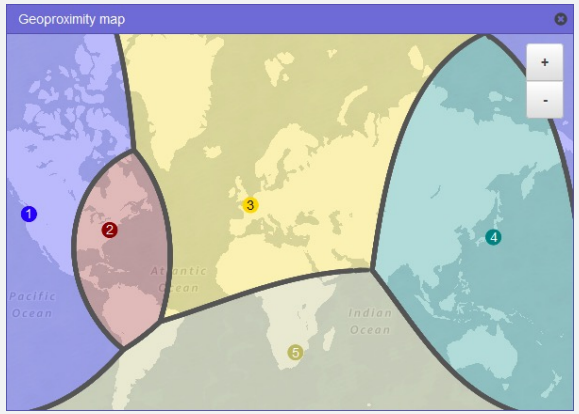
- ユーザーとリソースの地理的場所に基づいてDNSクエリに応答する

  EDNS0 を使用してユーザーの場所を推定、EDNS0 の edns-client-subnet 拡張をサポート

- バイアスの値を指定して特定のリソースにルーティングするトラフィックの量を変更する

- 地理的近接性ルーティングを使用するには、トラフィックフロー（後述）を使用する必要がある



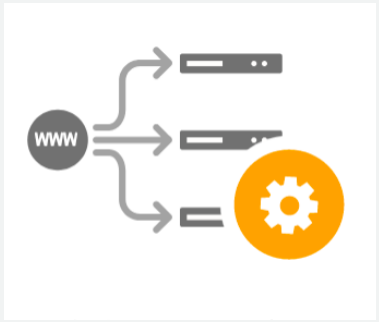


プライベートホストゾーンのレコードに使用できません。

https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/Route53/latest/DeveloperGuide/routing-policy-geoproximity.html

トラフィックフロー

ポリシーベースのトラフィックルーティングを、簡単に作成・管理できる機能



ビジュアルエディタ

直観的なビジュアルエディタを使用して複雑な設定を作成し、これをトラフィックポリシーとして保存。

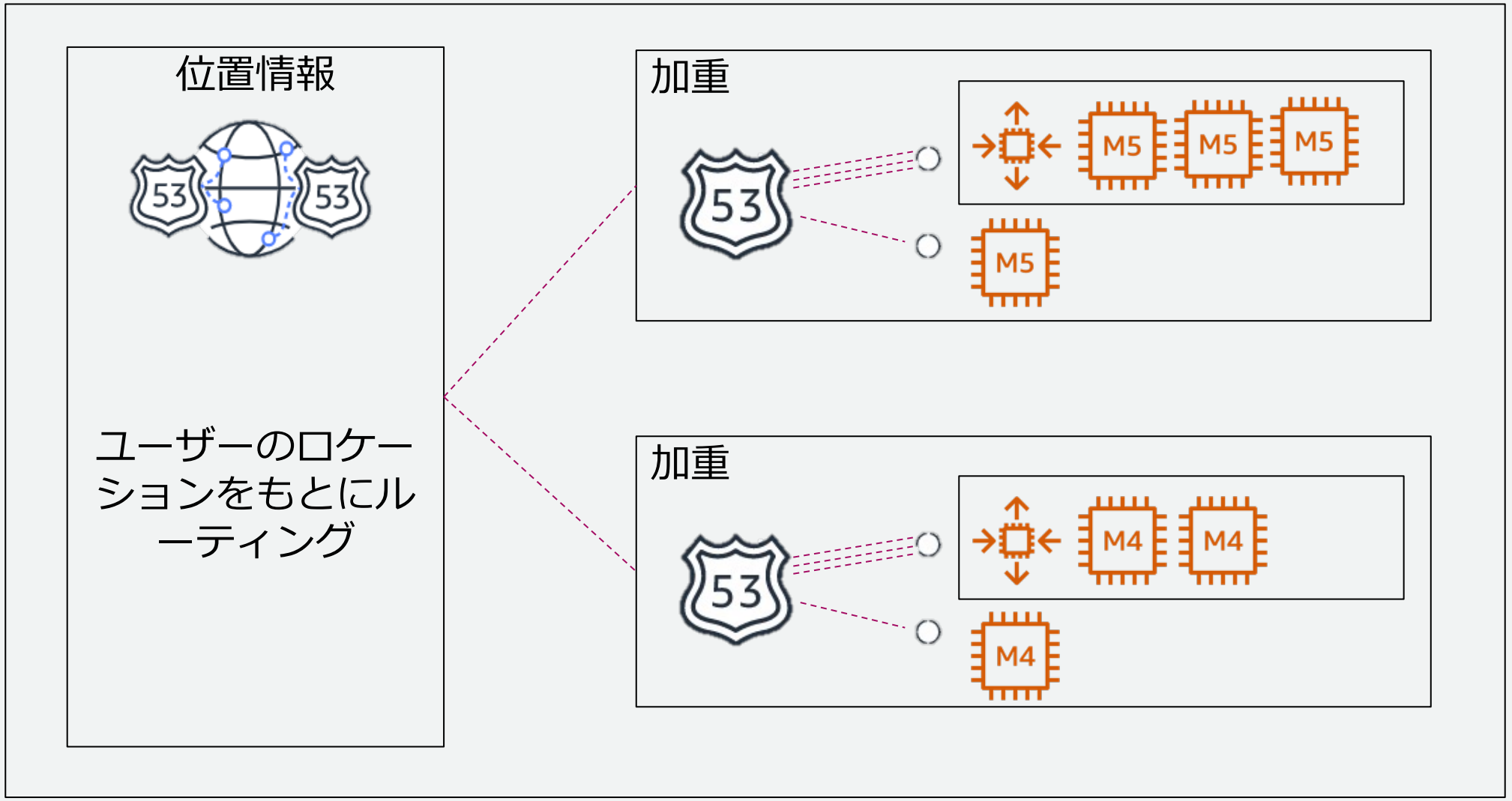
トラフィックポリシーバージョン

1 つのトラフィックポリシーの複数のバージョンを作成して、バージョニングを使用してアップデートの適用あるいは不適用を行う。

ポリシーレコード

ポリシーレコードを作成して、トラフィックポリシーをドメインあるいはサブドメイン名に関連付ける。

Route 53 高度なトラフィックポリシー



さらなる応用

- Amazon Route 53 では、AWS CLIやAWS SDKやAWS CDKを用いてゾーンやレコードの操作が可能
- Amazon Route 53が機能として備えていないロジックをユーザーが作成し、実装することが比較的容易
- AWS Lambdaはこれらロジックの実行環境として良い選択肢

Agenda

1. Amazon Route 53 ドメインの登録
2. Amazon Route 53 Hosted Zone
3. トラフィックルーティング
4. ドメイン移行とテスト、トラブルシューティング
5. まとめ

移行とテスト、トラブルシューティング

ネームサーバーの移行

- 適切な手順に則って作業すれば移行は難しくない
- 陥りがちな移行トラブルを未然に防ぐため、下記ドキュメントの熟読を推奨

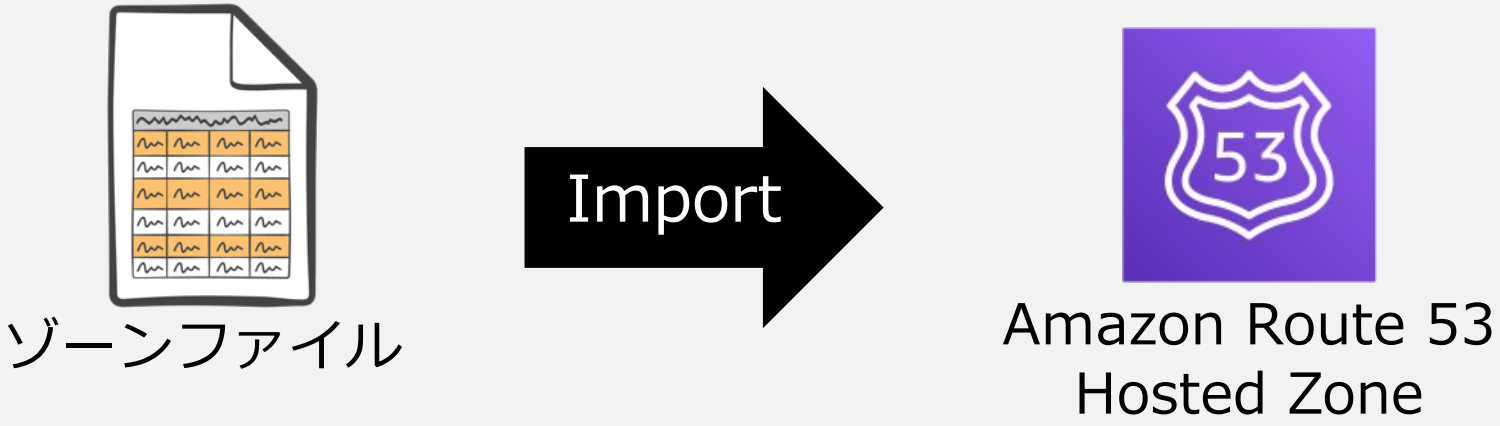
> ＤＮＳサーバーの引っ越し～トラブル発生を未然に防ぐ手順とポイント～,
> 株式会社日本レジストリサービス, 2015
> https://jprs.jp/related-info/guide/019.pdf

ネームサーバーをAmazon Route 53に移行する際の代表的なタスク

1. Amazon Route 53 Hosted Zone を構成する
2. ネームサーバーに関連するリソースレコードのTTLを短縮する
3. DNSSEC を無効にする
4. 親ゾーンと子ゾーンでDelegation(権限委譲）の設定を変更する
5. 旧ネームサーバーの廃止、DNSSEC を有効にする

Amazon Route 53 Hosted Zoneを構成する

- RFC1034, 1035形式のゾーンファイルをインポートしてHosted Zoneを構成できる
- $GENERATEなど一部仕様はサポートしていない、必要に応じてAWS CLI / AWS SDKを利用



TTL の短縮

- 作業開始前に該当するTTL 値の短縮が可能な場合
  - ネームサーバーの切り替えに要する時間を短縮できる
  - 万が一、移行作業に失敗した場合の「切り戻し」の時間も短縮される
- 移行作業、切り戻しの時間を考慮し60秒～3600秒程度に短縮することが多い

example.com.	86400	IN	NS	ns1.example.com.
ns1.example.com.	3600	IN	A	192.0.2.1

短縮

あるいは

ns1.example.com.	300	IN	A	192.0.2.1
example.com.	300	IN	NS	ns1.example.com.

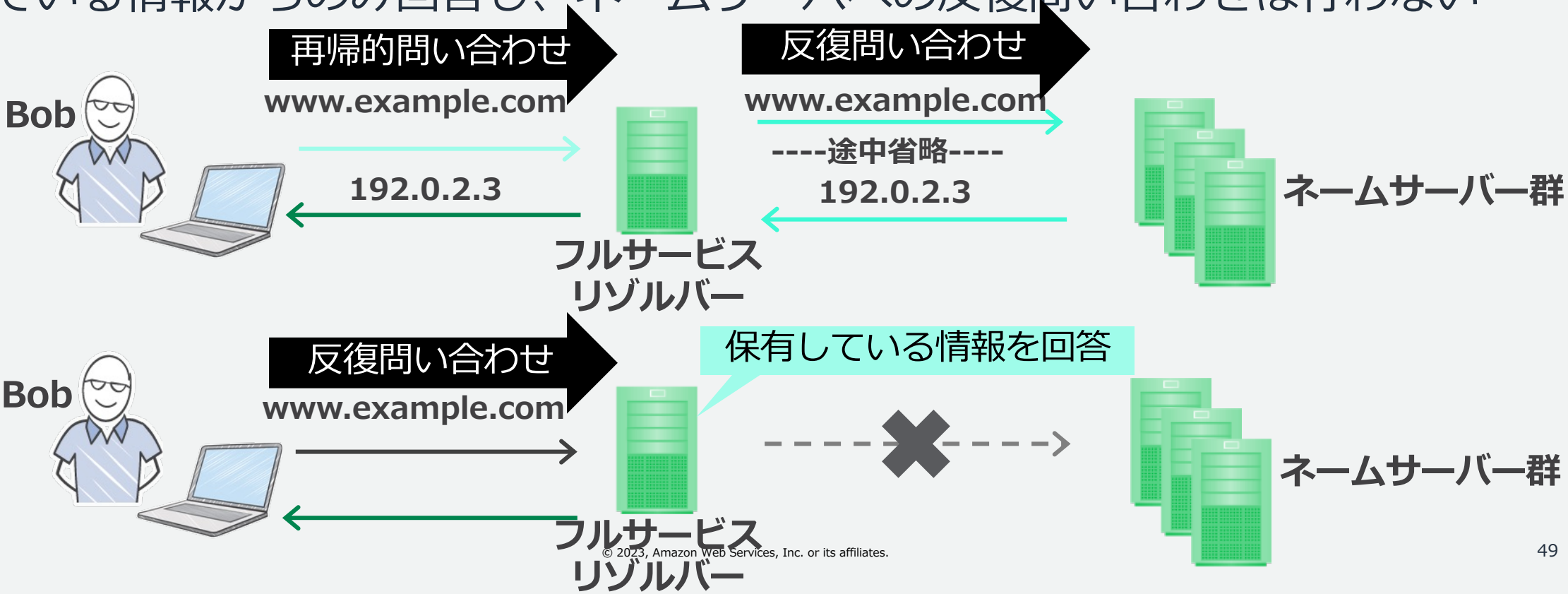
テストとトラブルシューティング

- ネームサーバーやフルサービスリゾルバーに対して問い合わせを試行する
  - 代表的な疎通確認ツール：dig(主にLinux) / nslookup(主にWindows)

- 原因はどこか？ドメインか？ネームサーバー（Hosted Zone）か？フルサービスリゾルバーのキャッシュか？を特定する
  - キャッシュの有無、再帰的問い合わせと反復問い合わせを識別しながら試行すると問題箇所を特定しやすい
  - 出力情報やオプションが豊富な dig コマンドが有用

再帰的問い合わせと反復問い合わせ

- 反復問い合わせは、自らがネームサーバを辿る際に行う問い合わせ
- 再帰的問い合わせは、問い合わせ先に名前解決を依頼する問い合わせ
- フルサービスリゾルバーが反復問い合わせを受け取った場合、自らが保有している情報からのみ回答し、ネームサーバへの反復問い合わせは行わない



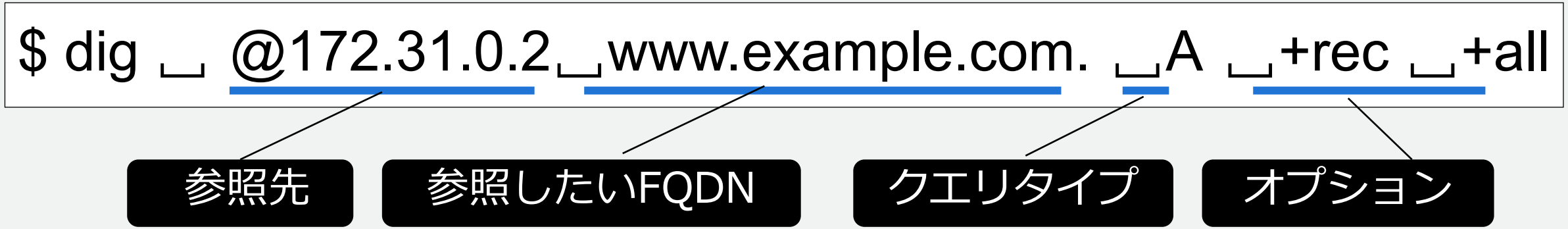
digコマンド

引数として「参照したいFQDN」は必須、そのほかは、省略すると以下の値で補完される

参照先：スタブリゾルバーの参照先（/etc/resolv.confのnameserver）

クエリタイプ：A

オプション：+rec (再帰的問い合わせ)　+all (表示指定を全て有効)



digコマンド結果

```
$ dig @172.31.0.2 www.example.com

; <<>> DiG 9.9.4-RedHat-9.9.4-74.amzn2.1.2 <<>>
www.example.com
;; global options: +cmd
;; Got answer:
;; ->>HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 57031
;; flags: qr rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 0,
ADDITIONAL: 1

;; OPT PSEUDOSECTION:
; EDNS: version: 0, flags:; udp: 4096

;; QUESTION SECTION:
;www.example.com. IN A

;; ANSWER SECTION:
www.example.com. 60 IN A 192.0.2.3

;; Query time: 758 msec
;; SERVER: 172.31.0.2#53(172.31.0.2)
;; WHEN: 月 10月 14 04:37:26 UTC 2019
;; MSG SIZE  rcvd: 65
```

特に注目

Header

Question

Answer

Headerから状況を読み解く

```
;; ->>HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 57031
;; flags: qr rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 0,
ADDITIONAL: 1
```

これらはDNSの名前解決で生じている問題を明らかにする有用な情報です。
AWSサポートにお問い合わせの際にも、digコマンドの出力結果を
ご提供頂けるとスムーズに原因究明を進めることが出来ます。

status	概要
NOERROR	正常な応答
SERVFAIL	何らかの要因により、DNSサーバーから応答を得られなかった
REFUSED	リクエストが拒否された
NXDOMAIN	リクエストされた名前が存在しない

flags	概要
qr	応答であることを示す
aa	ネームサーバからの応答であることを示す
ra	再帰的問い合わせを受け付けられることを示す
tc	何らかの要因により応答の一部が切り捨てられたことを示す

【参考】初心者のためのDNS運用入門–トラブル事例とその解決のポイント–, 水野貴史, 株式会社日本レジストリサービス, 2014
https://dnsops.jp/event/20140626/dns-beginners-guide2014-mizuno.pdf

複数地点からの確認

- インターネット上の複数のフルサービスリゾルバーから確認を行うことで、
  移行後の正常性確認を確実にできる
- Public DNSの活用は、これを手軽に行うための選択肢のひとつ

【参考】Public DNS Server List
https://public-dns.info/

Amazon Route 53 DNS のベストプラクティス

DNS フェイルオーバーとアプリの回復にデータプレーン機能を使用

Route 53 のデータプレーンは、グローバルに分散されて、重大なイベント中でも 100% の可用性と機能性を実現するように設計されている

DNS レコードの TTL 値の選択

レイテンシーと信頼性、および変化に対する応答性と間のトレードオフ。

DNS の委任

DNS で複数のレベルのサブドメインを委任する場合、常に親ゾーンから委任することが重要

DNS レスポンスのサイズ

大きなシングルレスポンスの作成は避ける。

ほかのはドキュメントをご参照ください。

https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/Route53/latest/DeveloperGuide/best-practices-dns.html

Agenda

1. Amazon Route 53 ドメインの登録
2. Amazon Route 53 Hosted Zone
3. トラフィックルーティング
4. ドメイン移行とテスト、トラブルシューティング
5. まとめ

まとめ

まとめ

Amazon Route 53 にてドメイン新規登録、移管とDNSのネームサーバー機能を提供するAmazon Route 53 Hosted Zoneについて解説しました。

本資料に関するお問い合わせ・ご感想

技術的な内容に関しましては、有料のAWSサポート窓口へ
お問い合わせください

https://aws.amazon.com/jp/premiumsupport/

料金面でのお問い合わせに関しましては、カスタマーサポート窓口へ
お問い合わせください（マネジメントコンソールへのログインが必要です）

https://console.aws.amazon.com/support/home#/case/create?issueType=customer-service

具体的な案件に対する構成相談は、後述する個別相談会をご活用ください

ご感想はTwitterへ！ハッシュタグは以下をご利用ください
#awsblackbelt

その他コンテンツのご紹介

ウェビナーなど、AWSのイベントスケジュールをご参照いただけます

https://aws.amazon.com/jp/events/

ハンズオンコンテンツ

https://aws.amazon.com/jp/aws-jp-introduction/aws-jp-webinar-hands-on/

AWS 個別相談会

AWSのソリューションアーキテクトと直接会話いただけます

https://pages.awscloud.com/JAPAN-event-SP-Weekly-Sales-Consulting-Seminar-2021-reg-event.html

Thank you!